



▲竹を割り、節を取る作業の様子



▲手作りの炭焼き窯に竹をすき間なく並べます

地域の話題

神戸校区

「じゃまもの」の竹を価値ある竹炭へ

竹の繁茂により荒廃が進む里山。
その竹を伐採し、竹炭にする活動をしている
神戸コミュニティ協議会からお便りが届きました。



荒廃が進む里山

竹が繁茂し、荒廃が進む里山。その里山をなんとかしたいという思いから、竹炭づくりの活動は始まりました。

「神戸校区まちづくり推進計画」で、「里山保全を兼ねて竹を伐採し、竹炭を作製する」を主要施策の1つとして掲げ、平成19年度から、校区が主体となって取り組んできました。

手づくりの炭焼き窯が完成

竹はあっても、炭焼きのための窯がなければ、竹炭はできません。活動の始まりは、炭焼き窯をつくることから。場所を神戸大池のほとりに決め、専門家の指導を受けなが

ら、当時の役員と有志で協力し合っ
て、手づくりの炭焼き窯が完成しま
した。

竹炭ができるまで

竹炭をつくろうとしても、竹がす
べて燃えて灰になってしまったり、
炭になっていなかったりと、最初は
失敗の連続でしたが、試行錯誤を重
ねる中でコツをつかみ、なんとか竹
炭ができるようになりました。

1回の炭焼きに必要な竹は、約8
mの長さで約160本。それを70cm
の長さに切り、5分の1ぐらいに割
り、節を取って、すき間なく窯に入
れます。火を入れたら、2昼夜、交
代で火を見守りながら、窯の温度を
調整し続けます。火を消した後、3
週間程度待つと、竹炭が完成します。

価値のあるものへ

竹炭と、竹炭の副産物である竹酢
液は、花壇や家庭菜園で、土壌改良
や消毒などにも利用できると好評。
「じゃまもの」の竹は竹炭や竹酢液
となり、校区の方にとって価値のあ
るものとなっています。

参加者募集中

竹の伐採作業などには、人手が必要
です。里山再生だけでなく、参加者同
士の交流も目的としています。竹炭づ
くりに興味のある方は、神戸市民館に
ご連絡ください。

